

## ドナウ通信

## 御挨拶

ハンガリー日本友好協会

会長 ラーツ・イシュトヴァーン

この度、ドナウ通信紙上をお借りして日本人会会員の皆様に御挨拶申し上げる機会を得ましたことを光栄に存じます。

古くから築かれてきた日洪関係はここ数年間の中・東欧情勢の激変に伴いより深いものになりました。海部首相の来洪、ゲンツ大統領の訪日に続き、アンタル・ヨーージェフ首相の訪日も実現の運びとなりました。

日洪関係の強化にともない、ハンガリーで生活する日本人の数も大変増えてまいりました。そして日本人会の活動内容からも、当地におられる日本人の方々がハンガリーの文化、慣習、生活に興味を持たれている様子が伺い知れます。

御高承の如く、両民族の間にはアジア人としての遺産やその他知られざる幾多の類似点があることでもあり、ハンガリー人もまた日本人の人々、伝統、芸術等に深い関心を持っております。人々の要望に応えて1987年にハンガリー日本友好協会(Magyar-Japan Baráti Kör)が非営利団体として設立されました。本協会の目的は日本文化を広くハンガリーに紹介し、両国の友好関係をさらに深めることに

あります。

本協会自体で種々の文化行事や会合を催し、会報にて他機関の類似イベントの紹介もしております。昨年ブダペストで開かれた「第2回ジャパンフェスティバル」には当協会も積極的に参加致しました。協会の活動は異なった部門によって構成されており、例えば地理、旅行、建築、日本の伝統遊戯、凧上げ、社会科学、園芸等のセクションに分かれます。また他の日本文化のサークル(盆栽、空手、剣道等)とも友好を保ち、その活動を支持しております。或る公営図書館には「日本コーナー」を設け日本語の書籍やテープをおき、日本語コースを開いたり日洪の若者にペンパルを紹介したりもしております。

当協会の後援で、ハンガリー科学アカデミー・世界経済調査研究所は日本・東南アジアリサーチセンターを、コロシ・チョマ・ソサエティーでは日本リサーチセンターを設立する運びとなりました。設立以来4年、会員数は800名を越え、ブダペスト以外にもデブレツェン、ドゥナウイヴァーロシュ、エステルゴム、ジュール、カポシュヴァール、セーケシュフェヘルヴァール、ソルノクに支部を持ち、会員の中には元大使や外交官、国会議員、科学者、芸術家、日本文化の専門家や、まだ一度も日本に行ったことのない一般市民もおります。私は協会設立メンバーの一人であり、1989年の総会で会長に選任されました。現在カンドー・カールマン工業大学副学長をつとめておりま

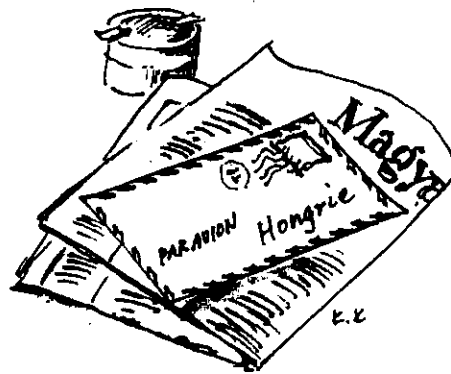
すが、私自身およそ5年間にわたり早稲田大学理工学部研究員として日本に滞在し1987年に電気工学科で博士号を取得致しました。会長職としての私の務めは、ハンガリーの人々に本当の日本を紹介する手助けをすることにあります。

日本人会とハンガリー日本友好協会とは数年来お互いの活動を認めあっているものの、将来的にはより緊密なる関係を創り上げ、お互いの関心事に共同プログラムを組織することができるようになることを心から願うものであります。どうかお互いをもっと知りあい、お互いの文化を学び合う機会を利用しようではありませんか。

今後とも皆様それぞれ分野で御活躍され、ハンガリーでの生活が実りあるものとなりますよう心よりお祈り申し上げますと共に、日本へご帰国された場合もいつまでもハンガリーの友人であっていただきたいと念願致しております。

最後に、日本には衆議院議員河野洋平氏が会長を務める「日本ハンガリー友好協会」が活動されている旨、一言申し添えておきます。

(注) 本文は、英文で頂いたものを翻訳させて頂きました。



## 大使館からのお知らせ

(一) 巡回医師団来航

前回お知らせいたしました巡回医師

団の日程が決まりましたので、多数の

方がご利用されますよう御案内致しま

す。

日 時 9月14日(土) 16日(月)

午前9時30分～午後0時

午後2時30分～午後5時

場 所 在ハンガリー日本国大使館

相談科目 内科、小児科、産婦人科

なお、同医師団は疾病の早期発見のための健康相談に応ずるもので、診療を行うものではありませんのでご了承ください。

(二) 盗難に御注意

最近、盗難が増加の傾向にあり、その内容も従来はほとんどがスリと置きでしたが、ひったくり、集団によるスリ、車の窓ガラスを割っての盗みと悪質になってきております。

皆様も最低限次のようなことに注意してくださいようお願いします。

・所持品を常に視野内に置く

・不審な人物、グループの尾行に注

意する

・貴重品は懐中に保管する

・玄関扉の施錠(場合によっては数

箇所)を確実にする

・長期不在時の盗難対策

### (三) サルモネラ情報

在オーストリア日本国大使館

今回の病気情報はサルモネラ菌による食中毒についてまとめましたので、ご参考にしていただければ幸いです。

#### 1 サルモネラ菌とは?

サルモネラとは、腸炎菌からチフス菌、ブタコレラ菌などを含む菌属で、食物と共に体内に入り、急性胃腸炎型の食中毒をおこします。日本では1936年、浜松の大福餅事件発生以来有名になりました。

#### 2 危険な食物は?

最も危険なものは、鶏卵(殻、中身とも)、鶏肉ですが、鶏以外の肉、魚介類、カマボコ等の練り製品などからも感染します。野菜、果実、乳製品からは少ないようです。

また、感染は四季を通じておこり得ます。

### 3 食中毒の症状

潜伏期は12時間から24時間(本人の体質や接種菌量によって多少異なる)

発病は急激に始まり、発熱、悪寒(時に戦慄を伴う)、嘔吐、下痢、腹痛を

主症状とします。下痢は、多い場合は1日十数回に及ぶことがあり、粘血便の出る場合もあります。

#### 4 治療と予防

抗生物質の投与と、对症療法(下痢止め、痛み止め、吐き気止め、補液など)で1週間から10日前後で軽快することが多い。死亡率は約0・1(

0・2%です(乳幼児では死亡率は高くなります)。

#### 5 予防

サルモネラは十分加熱すれば殺菌できます。因みに卵の殻のサルモネラは65・6℃で3・5分の加熱で死にますが、卵黄・卵白のサルモネラは、100℃で5〜8分の加熱が必要だそうです。

サルモネラは、まな板、包丁、布巾等にも付きやすいので、調理器具を十分洗浄することも大切です。

菌は患者の便から伝播しますから、処理に注意すると同時に、ゴキブリ、ネズミの駆除も大切です。

#### 6 最後に

サルモネラ食中毒に関して、我々日本人に特に問題になるのは、卵かけご飯とスキ焼きにつける卵でしょう。急激な下痢と腹痛および死亡率0・1〜0・2%を覚悟の上でおいしく食べるか、生卵なしで後顧の憂いなく食べるか、それはご本人次第です。

## お知らせ

絵画展・詩画展 同時開催

- ・荒井 徹 日本の風景
- ・セーデル・カタリン 詩
- ・三井 泉 画

日時 10月24日〜11月20日

14時〜21時

(但し初日は17時開場)

場所 国立ギャラリー(ブタ王宮内)

I区、Sinház u. 1/3

## バビチ・ミハイ高校

創立1986年、やっと2回目の卒業生を送り出したばかりのバビチ・ミハイ高校は、スウェーデン風校舎の清潔で美しい学校です。

生徒数約350名、教員52名。国の体制変化とともに、西ヨーロッパ諸国の一員となるために意思の疎通を可能ならしめる必要があるという観点から、積極的に語学教育に力をいれており、英語、フランス語、ドイツ語、ス페인語、ラテン語、ギリシャ語、ロシア語などの授業が行われています。そして1990年度から日本語が新入生を対象に加えられ、日本語の授業のある、国で最初の高校となったわけです。

従ってバビチ高校では日本語教育が始まってわずか1年しかたっています

ん。今後日洪両国の交流がより深く頻繁になるだろうという見通しに立ってスタートしたばかりです。世界的な視野と知識を身に付けた人間形成が本学の語学教育の目的で、日常会話を中心に、読み、書き、話し、聞くの4つの基礎能力をマスターするだけでなく広い文化的知識の習得がその狙いです。

バビチ高校の日本語教育における1つのユニークな点は、対象が日本語一英語グループの生徒であるため、授業が英語で進められていることです。そのため英語のレベルが比較的高い生徒が選ばれており、1年目のグループの中には、すでに1学年時において英語の国家試験中級に合格した生徒もいます。18人から成るこのグループの生徒は、英語で学ぶ困難があるとはいえず、活氣的にどんどん吸収し、よく勉強しています。

はや91年度の日本語一英語グループの新入生選考時には、定員12名に対し受験者数は約50名に上り、ハンガリー

における、日本とその言語、文化に対する興味のもりあがりを感じました。本校がブダペスト市外出身の生徒用の宿舍を備えたと同時に、遠方から日本語学習のため受験に来た生徒も少なからずおりました。

文字通りゼロから出発したプログラムであり、国際交流基金から寄贈していただいた図書、教材なしには非常に困難であったろうといえます。また当校に留学中の日本人生徒を交え、そのご父兄から図書、器材を受けることができ、少しずつ整ったものになりつつありますが、やっと2年目の段階でまだまだ試験的な要素が残されており充実したプログラムとはいえないのが現状です。

しかし、今年から8年制校となったバビチ高校の日本語学習希望者の数はこれからも増え続けるだろうと予想されます。今後も皆様方のご支援を願います。独自のプログラムに育てていきたいと思っております。(Soviny記)

# 作文

フィールドワークの思い出

中1 磐井まどか

「あの花はどういう名前？」

と、エステルが道端に咲いている白い花を指す。

「ああ、あれはマーガレットだよ」

と明子ちゃんは答える。

それを私が紙に記録する。

こういう会話を交わしながら、私たちはパラトン湖の湖岸を歩いた。

全行程がおよそ2kmのホテル・アリの周辺の丁度1時間30分で歩き終るかどうかのとても楽しいゲームだ。私はこの行事には前からとても興味を持っていて。それは、アメリカンスクールの合宿で初めてフィールドワークをやった時、とても楽しかったからだ。でも私はこのパラトン湖合宿でやったフィールドワークの方が好きだ。それ

は、関門付きだからだ。フィールドワークの通り道や木の陰にいくつかの関門があり、その関門のクイズを解かないとそこを通れないのだ。

私たち、7班（明子ちゃん、エステル、りょう子ちゃん、よう子ちゃん、私）は、大体の関門をエステルと明子ちゃんがすらすらと解いてくれたので私達は早く行けた。もしエステルと明子ちゃんがいなかったら、私はない脳みそをふりしぼって考え、馬鹿らしい答えを言っていただろう。

こうして、私たちは最後の関門を無事に抜けて、やっとのことでゴールした。所要時間1時間26分。そして、がんばって歩いたかいがあり、関門のクイズは5問のうち3問は正解だった。そして、それはとても成績が良かったので、7班は1等を獲得した。

夕方、賞品のチョコレートを買った。夕方、賞品のチョコレートをシャーリーのおばさんからもらった時、私は早く家に帰ってお母さんに知らせたいと思った。とてもうれしかった。

フィールドワークは、私のパラトン湖合宿での一番印象に残った行事だった。



## 補習校便り

1学期が終り、補習校も夏休みに入りました。入学式・夏期集中授業・合宿・運動会と行事の多い学期でしたが無事に終えることができました。

振り返ってみれば、4月に新入生を迎えスタートした1学期。まだあどけなさが残り、大きなバッグを背負って登校し、体が隠れそうだった1年生もずいぶん成長してきたなと感じます。

そして夏期集中授業。今年の集中授業は国語・算数だけではなく、理科・社会・図工・体育等の教科も取り入れほとんど日本と同じような時間割で進めました。普段、国語・算数しか学習していない子供達にとって、いろいろな教科の学習ができるとあってとても意欲的に取り組んでいました。休み時間には元気が良すぎた大使館から注意されることもありましたが、充実した集中授業であったと思います。

次に、子供達が一番楽しみにしていたのが合宿です。今年はバラトン湖に行きました。天候にもまずまず恵まれ無事にすべての日程を終えることができました。初めて経験したフィールドワーク、少し怖かったきもだめし、チームワークの大切さを知ったスポーツ教室、泳げない子が泳げるようになった水泳教室とプログラムは多かったです。どの子も弱音を吐かずに頑張り通しました。この合宿で特に嬉しかったのが高学年の頑張りです。小さい子の面倒を本当に良く見、自覚を持って自主的に活動してくれました。収穫が大きかった合宿でした。

最後に、朝からの雷雨で外での開催が気になった運動会。競技が始まる頃にはすっかり好天になり、むしろ暑かった運動会でした。運動会が近付くと休み時間には「そうじゃないよ」、「ここを持ってやるんだよ」と小さい子に教えながらスプーンリレーの練習を一生懸命にしていました。先生に何

度も叱られながら練習した組体操も歯をくいしばって見事にできました。小さい子供達も大きい子供に負けずによくやったと感心しました。また、アイデアを出し合っていた着付け競争も面白かったと思います。

こうして1学期を振り返ってみますと、本当にいろいろなことがあります。一つ一つを乗り越えて子供達は成長してきています。そして、この夏休みの間にさらに成長し、2学期には逞しい姿を見せてくれることを期待しています。



ハンガリー民俗あれこれ(一)

復活祭の水掛けと5月の木

平賀 英一郎

女の子は咲き匂う花で、年に一度は水をやらないといけないらしい。復活祭の月曜日は、水掛けの日である。

緑の森に入り込み

青いスミレを見つけたよ

花は今にも萎れそう

水をやってもいいかしら

というような詩句を言っ、子供も若者も大人も、男達は友人知人や隣近所の娘、女房達に水をかけて回る。今ではオーデコロンを髪に振り掛けることが多いが、村によってはバケツでもって盛大にぶっかける。オーデコロンならいいが、バケツでやられては迷惑な話だろうと思うのだが、しかしかけられた女の子はお礼に復活祭の赤く塗った卵を渡すことになっている。祭日の水には人を若返らせる力がある。とあって女達もかけられっぱなしというわけではなく、所によっては翌火曜日

に男どもは水をかけられる。

韻をひねる趣味のある者は、この水掛けの詩句を自作する。ルーマニア領内に住むハンガリー人の間では、彼等のおかれた位置を反映してか、これに政治風刺の盛り込まれることが多い。チャウシエスク時代には

オーデコロンは誰も損なわぬ

万歳ルーマニア共産党!

と言っていた。それが「革命」以後は

オーデコロンで死ぬものはない

くたばれ救国国民戦線(現在の政権党)!

になったという。

他人の酒に酔っ払い

ペートル・ロマン(首相)のよう

にニタニタと

今にも吐いてしまえようだ

ヴァートル(反ハンガリーの国粋主義団体)のことを考えたなら

イリエスク(大統領)はああだの

こうだの

私は水をかけるだけ

というのも聞いた。ちなみにこれはハ

ンガリー人の習俗で、ルーマニア人はない。わが国の狂歌や川柳にあたる民衆詩の1ジャンルとして発展しつつあるわけだが、状況が状況だけに川柳等よりずっと重い。ともあれ、水と卵と少々の詩心を介した楽しい社交ではある。

5月1日の前夜は、若者達には結構力仕事だ。森へ行って木を切り、夜の更けて人の寝静まった頃、目指す娘の家の前に立てなければならぬ。木はてっぺんを残して枝をそぎ落とし、紙りボン等で飾り付ける。人が立てた木をこっそり盗み、自分の女の子のところに持って行って立てることもよくある。だから朝まで盗まれないよう見張っていたりする。女の子はそれに対して別に何かするわけではない。村によっては1週間とか1月後手製の菓子で歓待するところもあるが。この時木の回りで踊ることもある。無駄に木を切って、森の番人には苦々しい習俗かもしれないが、しかし無駄に切り無駄に力を使って、地上5〜6mにまでもものしくも間接的に表された好意のゆかしさよ。戦後ハンガリーでもい

ろいろな古い習俗が廃れていったが、若者達は女の子のためにいくつか美しい習わしを守っている。

## 随想

帰国を前に

中家 悠子

早いもので、ここブダペストに参りまして6回目の夏を迎えました。私が子供と共にブダペストへ参りましたのは1986年6月でした。ちょうどあのチェルノブイリ原発事故の1ヶ月半後で日本でマスコミの報道の大きさを見ておきますと、当時5才と2才だった小さい子供を連れて汚染地域の近くへ参りますのは決死隊の如き心境でございました。しかし、4月に一足先に赴任しておりました主人や、やはり1月からフランスの寄宿舎におりました長女のことにも気になり、思い切ってやって来た次第です。

放射能の身体への影響を考えますと不安で、様々なフリーズドライ野菜、

缶詰、レトルトパック食品、インスタント食品、それにヨード分を含むという海藻類など驚くほどに膨れ上がった食品の山と共にこちらへ参りました。チェルノブイリ事故直後の5月には

ここブダペストの八百屋の店先にはハンガリーからの輸出が禁止になった豊富な野菜が並び、普段はウィーンまで行かなければ手に入らない野菜だけに欲しいけどでも怖い：という事で結局恨めしく眺めていただけだったと当時こちらにいらした方からお聞きしました。しかし私が参りました6月には、すでに元の寂しい店先に戻っており、こんな少ないお野菜でどうやって毎日献立を立てようかと悩んだことが懐かしく思い出されます。缶詰、ミルク、ジュース類はウィーンで買え、また、チェルノブイリ事故以前の古い日付のものを選ぶようにとも教えていただきました。

私の参りました5年前は、ABCもその他のお店も品数が本当に少なく、ウィーンまで行って魚や野菜、果物、

子供のおやつ、ジュース、雑貨そして衣類のすべてを調達しておりましたが、最近のお店は何と多くの品物を扱うようになったことでしょう。少々お高いけれども本当に便利になりました。せっかくこんなに便利になったのだからもう少したかなどと言って下さる方もいますが、主人の任期も相当長くなっておりまして、長女も大学生になって一足早く帰国しておりますので、いよいよ8月に帰国いたします。

5年間を振り返ってみますと、トラバントで免許を取ったこと、毎年暑さの中を出席した6回の運動会、遠足、そして楽しみだったお寿司大会と懐かしく思い出されます。カレーライスとグヤーシュのお鍋を持って行き来していたご近所ハンガリー人家族、親しくしていただいた日本人の方々とのお別れはとても寂しく残念ですがまたお目にかかれる日を楽しみに致しております。

最後に皆様方の今後のご発展とご健康をお祈りしてお別れさせて頂きます。長い間ありがとうございました。



# 留学生コーナー

編集委員に任命されて

この度、何故かこのコーナーの責任者に任命されました山本浩一郎です。リスト音楽院でトロンボーンを勉強しています。ドナウ通信には非留学生のコーナーを設けたいとの御指命により弱音を吐きつつもこの様に一生懸命やっておる次第です。

今回は、第1回ということで簡単な挨拶と抱負、そして後藤君にエッセイをお願い致しました。これから留学生の皆様もいろいろな素晴らしい場所、音楽に出会うことでしょう。もしよろしかったらあなたも如何でしょう。このコーナーによって皆様のお役に立てれば幸いです。演奏会の情報、その他の情報や面白い体験談、何でも待っています。

シクローシュにて「ガレイ城」

後藤 宏一

ガレイ城の正面から100m程のところを車を止めてもらった。直ぐ視界に飛び込んで来たのは風化された城壁で、古く長い歴史を感じさせた。空の青、城壁の茶、木々の緑が絶妙なコントラストを与え、自分が画中の対象物であるかのように思えてきた。

まず初めに迎えてくれたのはヨーロッパの扉兼掛橋であった。そこを通過して20歩位の所を左に行くと展望台への入り口がある。それは中世ヨーロッパ風と言うよりフィヨルド風と言ったほうが適切な位入り口らしくなかった。そこを体を屈めながら登ると円形状の展望台があり、360度全てにそれぞれの性格を持った景色が存在した。美しいと言うより古いマテリアルが、それなりに息を潜めながら、互いに並び合っているような感じである。恐らくここも人間の生命のように徐々に少しずつ変化を遂げて現在のようになったのだろう。

長い通史の中、いろいろな人々がここを訪れ、展望台に登りの景色を見た時、彼等は一体何を思い、何を考えたのだろう。

シクローシュはペーチから南へ32kmにあり、ペーチ遠距離バスターミナルから毎時間出ているシクローシュ行きで1時間。タクシーを使えばペーチ駅前から30分で1300Pt程度。

## 情報

皆さん、国際学生証(International Student Identity Card)を持っていますか? 国外ではハンガリーの学生証は使えないことがあります。この学生証があれば、電車、美術館等が安く利用できます。

必要なものは、写真(3.5×2.5)1枚と200Pt(91年7月現在)です。住所V区、Szabadság tér 16ハンガリーテレビの側です。

# ハンガリー料理シリーズ(1)

ハンガリー料理というとグヤーシユやパプリカチキン等が有名ですが、今回からシリーズでお料理の本にも載っていないようなごく普通のハンガリー家庭料理を御紹介します。

第1回目はパプリカーシユ・クルンプリ(Paprika's Krumplics)、ハンガリー版肉じゃがです。かくし味のお醤油はハンガリー人から見れば邪道でしょうが、味にぐっとコクが出ます。ハンガリー人はパンと一緒に食べますが、ご飯にもよく合います。出来立てがおいしいのは勿論ですが、多めに作っておくと次の日にはじゃがいもによく味がしみ込んで尚更美味しく頂けます。



## 《作り方》

じゃがいも 700g

タマネギ 中2個

ソーセージ 2本

塩、パプリカ(好みでタカノツメ)  
醤油、油、水

1 じゃがいもは皮を剥き、1口大に乱切りにし水に晒す。

2 タマネギはみじん切り、ソーセージは1口大に輪切りにする。

3 深めの厚手鍋に油を多めに(大さじ3)入れ、タマネギを色が変わるまで炒める。

4 タマネギの色が変わったところで一旦火からおろしじゃがいもとソーセージを加え軽くかき混ぜる

5 再び火にかけ、水400cc、塩小

さじ1、パプリカ大さじ1(タカノツメ1かけら)、醤油少々を入れてかき混ぜ、蓋をし中火で約20分煮る

6 じゃがいもに火が通り、水気がなくなったら出来上がり

(欣)

## 日本人会より

6月の日本人留学生コンサート、及び7月の運動会は各分野の方々のご協力によりそれぞれ成功裡に終了しましたこと紙上をもってあらためて御礼申し上げます。

特に留学生コンサートの諸経費を日本大使館よりの御援助にあずかりましたこと、運動会での補習校先生方のご努力並びに大会実行委員長をお引き受け頂いた丸紅ハンガリーの皆様方には大変お世話になりましたこと、御礼方々こことも御報告させて頂きます。

## 編集余談

本夏期号の発行が諸般の都合により大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

次の秋季号は10月半ば原稿締切、11月初旬発行を予定しております。

飛び入り原稿等大いに歓迎致します。(発行責任者 日本人会会長)

江原 英治